

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話をお届けします。

お年寄りたちの貴重な体験談（第四回）

あすべひとこと

思い出

一、耕地整理について

私の子供のころ、村に耕地整理がありました。それは「山ノ神地区」にありました。そのころトロッコがありました。

田んぼに細い鉄のレールを二本並べ三間くらいの物を先から先へとつなぎ、横は枕木という松の細い丸太をつけて幅をととのえてその上に箱に車をつけて土を入れて運びます。土を入れる時は人の力で入れ、あける時も人の力です。これを何回も繰り返して土を運び耕地を造るのです。

もつこは人が一人でかつぎ土を運ぶのです。縄で二尺五寸四方に造り、二本の太い縄の綱をつけて土をのせたもつこを前と後の人があ棒を肩にのせてかつぎ運びます。

二、子供時代

八才になつて高島尋常高等小学校に入学しました。草ぶき屋根の大きな校舎でした。庭にナツメの木がありました。門の近くに（高島村）役場がありました。また、

三、水車のこと

私の子供のころは、村の近くの田んぼの川のそばに家が一軒あって、この家に水車がありました。家中に川が流れていて水車がまわっていたのです。一年中水が流れている川に水の力を利用して大きな水車がまわり、その力を利用して機械をまわし、そのころは米ツキ、麦ツキ、粉ヒキなどでした。

近くには三田所または大山水車などがあり、昔の人はこれを利用し、生活のためにもつとも必要だったのです。田んぼの中の一軒家でしたが毎日人が来て、何かと用事など多かつたのです。

高齢者の語り第一集

「あすべひとこと」（昭和六一年二月一日発行）—思い出をたどりて—より

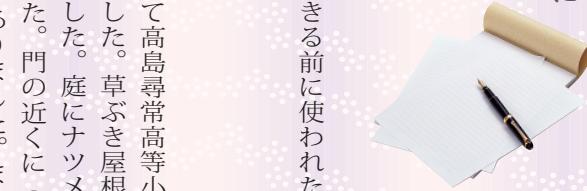
故・長谷川一雄さん（石打・一〇〇歳）

まちの風景

郷愁誘う
夏祭り
(狸塚納涼祭)



Photo 松村光明(記録ボランティア)



水車のある風景が、この地域にもあった
(写真はイメージです)



トロッコのできる前に使われたもの

「あすべひとこと」（邑楽町老人クラブ連合会・あすべひとこと編集委員会）は、邑楽町在住のお年寄りたちの貴重な体験談を、邑楽町あすべひとこと編集委員会が編集・発行したもの

南の庭先には、日露戦争の記念碑が高く立てられてあります。

学校の教科書石板などは

風呂敷（ふろしき）にくるんで背中に背負つて行きました。履物は下駄や草履（くつわ）で雨の降る日ははだしで唐傘（からさな）をさして行きました。尋常六年から高等一年になりそのころは一年生と二年生は同じ教室でした。同級生は男二十五人女は四人ぐらいと覚えていました。二年で卒業でした。



田園の中の田んぼ道（山ノ神地区）

ひとりごと From editors

▼「光陰矢のごとし」矢が飛ぶように月日の過ぎ去るのは早いという意味のことわざがありますが、的を射る言葉だと思います。おうら祭りの取材と編集が、やっと終わったと思ったら、曆の上では初秋に…。▼東日本大震災の復興チャリティーイベントとして開催された、今年のおうら祭りはあいにくの天気。でも、被災地へとメッセージを込めた風船とばしは、成功に終わりました。その願いと思いまは、きっと被災地へ届くはず。▼まだまだ暑さは残っていますが、季節の変わり目、皆さんもお体には十分気をつけてください。そして、被災地の人たちにとって、今日より明日が幸せな日となることを、祈ってやみません。(小)

